

あいち病害虫情報 最新情報

平成27年9月15日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ミナミアオカメムシ

早期水稲におけるミナミアオカメムシの発生量は、前年よりやや多い状況です。このため、普通期栽培水稲、ダイズでの発生量は、やや多いと予測します。

ダイズの生育は、播種が遅れたほ場も多く、ほ場間の差が大きい状況です。ミナミアオカメムシの発生量も、ほ場間でかなりばらつきがありますので、ほ場を見回って発生状況の把握に努め、発生ほ場では開花30日後を目安に防除しましょう。

落葉果樹の病害虫

モモせん孔細菌病が発生しているほ場では、台風などの風雨で感染の拡大が予測されますので、早めに防除しましょう。9月1日発表の「モモせん孔細菌病とナシ黒星病の防除情報」を参考にしてください。ナシ黒星病、ブドウべと病が発生しているほ場では、次作の伝染源を減らすため、秋期防除を徹底しましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は、平坦部では平年並か、やや少ない状況です。ヒノキの球果から離脱し、山林を出て果樹園へ飛来する時期は、9月下旬以降になる見込みです。しかし、台風18号の通過によりスギ・ヒノキ林の近くの果樹園では飛来が増加した可能性がありますので、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除しましょう。9月1日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参考にしてください。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、安城市及び西尾市のナシに設置したものでは、9月第1半旬に前年より多く誘殺されました。秋期はナシ園への成虫の飛来がだらだら続くことがありますので、発生が多い地域のナシほ場では、収穫前日数に注意し、防除しましょう。

コナガの発生に注意！

キャベツでは、コナガの発生量が多い状況です。ほ場での発生に注意しましょう。防除については、本日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

ダイズ、野菜類、花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、豊橋市では9月第1半旬以降、多い状況です。早期発見に努め、防除を徹底しましょう。ダイズでは、白変葉を確認したら、速やかに防除しましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。キャベツでは、結球部に食入すると防除が難しくなり、キクでは、生長点付近や花蕾が食害されるので、早期防除に努めましょう。防除については、9月1日発表の「オオタバコガ情報第2号」を参考にしてください。

9月上旬の巡回調査では、キャベツほ場でのハイマダラノメイガの発生量はやや少ない状況ですが、育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなりますので、早期防除に努めましょう。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数が多い状況です。キャベツほ場での発生も確認しています。発生状況に注意して、早期防除に努めましょう。

アブラナ科野菜の細菌性病害

黒腐病、軟腐病などの細菌性病害は降水量が多いと発生が増加します。名古屋地方気象台9月10日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多い見込みです。台風などの風雨はこれらの細菌性病害の発生を助長します。悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

イチゴ炭疽病、萎黄病

両病害ともに、気温が高いと発生が助長されます。また、炭疽病は台風などの風雨で発生が増加します。発病苗や発病が疑われる苗は定植しないようにするとともに、本ほ場で発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

トマト、ミニトマトの黄化葉巻病

トマト、ミニトマトでは、黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミを防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820